



同志社大学院グローバル・スタディーズ研究科  
Graduate School of Global Studies, Doshisha University

*10th Anniversary Symposium*  
10周年記念イベント

***“What is Global Studies?  
-Pursuing Conviviality and  
Constructing New Civilizations-”***

**2019.11.30 (Sun)**

**10:30-18:30**

**VENUE**

Ryoshinkan B1, Imadegawa campus,  
Doshisha University (今出川キャンパス良心館B1)

**CONTACT**

Office of the Graduate School of Global Studies  
問い合わせ先：同志社大学院  
グローバル・スタディーズ研究科事務室

For more information:

グローバル・スタディーズ研究科  
オリジナルサイト



- Tel: 075-251-3930 Email: [ji-gs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-gs@mail.doshisha.ac.jp)  
予約不要: No reservation required

# *What is Global Studies?*

## *-Pursuing Conviviality and Constructing New Civilizations-*

10:30- Welcoming and Open Remarks

### 10:45-11:30 Keynote Lecture:

*“The Need and Fear of the Universal: Insights from the History of Interreligious Coexistence in Ethiopia”*

By Prof. Eloi Ficquet, Associate Professor, School of Advanced Studies in the Social Sciences (EHESP), France

### 11:45- 13:15 Session 1:

Theme: Human and Nature in the Historical Crossroad  
(Presented by three distinguished speakers)

### 14:15- 16:15 Session 2:

Theme: Globalization and the Future of Civilizations  
(Presented by four distinguished speakers)

### 16:30- 18:00 Session 3

(discussion in Japanese language with English translation):

日本語セッション（同時通訳あり）：

“誰も取り残されない社会をめざして—持続可能な開発目標（SDGs）と日本の人間の安全保障指標”

特別講師：高須幸雄（国際連合事務総長特別顧問（人間の安全保障担当））その後パネルディスカッションに続く

*“Leave No One Behind: The Sustainable Development Goals (SDGs) and the Human Security Indicators in Japan”*

Special Lecturer by H. E. Mr. Yukio Takasu, Special Advisor to the UN Secretary-General on Human Security  
(Panel discussion will follow)



# 同志社大学

Doshisha University

大学院グローバル・スタディーズ研究科

Graduate School of Global Studies, Doshisha University

10周年記念イベント 日本語セッション

## 誰も取り残されない社会を目指して

－ 持続可能な開発目標（SDGs）と

日本の人間の安全保障指標－

2019年11月30日（土） 16:30-18:00

会場

今出川キャンパス良心館 地下1階

講師

高須幸雄

国連事務総長特別顧問  
（人間の安全保障担当）



2010年より国際連合事務総長特別顧問（人間の安全保障担当）。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」および「持続的平和のアジェンダ」を推進し、人間の安全保障を主流化する国連のアドボカシー活動を牽引してきた。外務省国連政策課長、国際社会協力部長、在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使（2001-05年）、国連日本政府常駐代表（国連大使）（2007-10年）などを歴任し、国連においては事務次長補・財務官（1993-97年）、事務次長（管理局長）（2012-2017年）を務めた。ハーバード大学、東京大学などで教鞭をとる。

お問い合わせ：同志社大学グローバル・スタディーズ研究科事務室

Tel: 075-251-3930 Email: [ji-gs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-gs@mail.doshisha.ac.jp)

予約不要

## グローバル・スタディーズ研究科創立10周年記念イベント 【セッション3】

# 誰も取り残されない社会を目指して

## － 持続可能な開発目標（SDGs）と日本の人間の安全保障指標 －

持続可能な開発目標（SDGs）は、「誰も取り残されない社会」の実現を目指し、17の目標、232の指標を設定している。アジェンダ2030の目的は、この世界に生まれた一人一人が、かけがえのない人間として尊厳をもち、自然と調和し、安心して暮らせる世界を実現することである。

日本は「先進国」なので、国全体として見れば、ジェンダーや環境などの領域を除いて、すでにSDGsの目標の大部分を達成している。それでも、SDGsの実現に向けて取り組むべきことはたくさんある。4分の1に当たる人々が日々の生活に満足していない社会は、たとえ残り的人々が多かれ少なかれ満足していても、SDGsが実質的に達成された社会とは言えないからである。日本において、貧困、差別、孤立のためにすでに取り残された人々、これから取り残されかねない人々は誰だろうか。そのような人々はどこにいて、どのような困難に直面しているのだろうか。かれらの生きづらさは、SDGsのどの目標、どの指標と関連しているのだろうか。これらを明らかにするところから、日本においてSDGsの目的を実現していく実践が始まるだろう。

「誰も取り残さない」というアジェンダ2030の目的は、人間の安全保障の理念と重なる。人間開発は人々の選択肢が徐々に広がっていくプロセスを重視するものだが、人間の安全保障の考え方では、脅威に対して脆弱な人々に焦点を当て、そのような人々を保護するとともに、人々の主体的な取り組みに寄り添おうとする。

この実践を進めていくためには、貧困、不平等、差別、社会的排除に苦しむ弱い立場の人々がどこにいるかを調べ、可視化することが、まず必要になる。そこで、国際連合において人間の安全保障の普及に努めてきた高須幸雄大使がイニシアチブをとり、NPO「人間の安全保障」フォーラムおよび人間の安全保障学会が協力する形で、日本における人間の安全保障指標を作成するプロジェクト・チームが結成された。

取り残されがちな人々の存在を可視化するために、プロジェクト・チームは、命、生活、尊厳という人間の安全保障を構成する三つの領域に即して、公的な統計にもとづいて47の都道府県別に総計88の指数を計算し、それぞれの都道府県の努力が求められる領域を特定した。客観的な統計データを集めるだけでなく、人々の自己実現と社会的結合の主観的程度を尋ねるアンケート調査も行った。さらに、子ども、女性、若者、高齢者、障がい者、LGBT、被災者、外国人、難民など、弱い立場に置かれた人々の生きにくさと、それを克服する取り組みを描き出すケーススタディを実施した。

本年11月17日には、東京大学駒場キャンパスで開催される人間の安全保障学会・国際開発学会合同大会において、この指標について議論するラウンドテーブルが開催される。今回の京都の同志社大学でのセッションは、西日本でのお披露目にあたる。今後、プロジェクト・チームは指標の結果を日本と世界に発信していく。そして、汎用性を高める改善をほどこし、世界のとりわけ先進諸国が各自でSDGsの目標を達成していくためのローカルな指標のテンプレートとすることを目指していく。このイベントは、そのための第一歩である。多くの学生、研究者の来場を期待する。

※このセッションは、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科創立10周年記念イベントの一部として開催されます。議論は日本語で行いますが、英語への同時通訳も入りません。

※会場では、指数を紹介した書籍『全国データ／SDGsと日本－誰も取り残されないための人間の安全保障指標』（明石書店）も販売します。